

## “持続可能”とは、つながりをつくること

「持続可能な地域づくり実践セミナー」は、自己紹介やヒアリング技術の習得、NPOへのインタビュー調査という、実践を重視した新しい形の授業です。自分の活動や研究分野に応用して活用できるスキルを習得できたと感じています。また、他専攻の学生とともにグループワークをする中で、興味を持つ視点が異なり、活発な議論もできました。

私たちの班は、「防災から見る持続可能な地域づくり」に焦点をあて、名古屋を拠点に全国的な災害支援を行っているレスキューストックヤードを対象にヒアリングを行いました。被災地の現状や代表理事の栗田暢之さんの熱い想いはもちろん、NPOが社会の中で果たしている役割の幅広さに驚きました。私は現在都市計画・まちづくりを専攻し、様々なまちづくり活動に参加しています。授業を通じて、NPOにおいても、まちづくりの現場においても、大切なことは「人のつながり」であり、その継承や若者の参画といった「持続性」が課題であると感じました。

藤原 由佳梨  
(レスキューストックヤード班)  
都市環境学専攻 M2



環境学の

# 授業発見!

理学、工学、人文科学、異なる専門領域の学生がともに学ぶ環境学研究科ならではの授業です。

【今回の授業】

## 持続可能な地域づくり実践セミナー 高野雅夫准教授

地域のNPOを対象に、事前調査、インタビュー、プレゼンテーションをグループワークですすめます。活動状況やこれからの課題を聞くことで、持続性ある地域づくりのキーワードを探ります。



## 他専攻との議論が、楽しくて新鮮

この授業は先生の話聞くだけでなく、授業を受けている人が発言する機会が多いのが特徴です。授業中に、自己紹介などでどんな研究をしているのか、どんなことに興味があるのかを話す時間があります。興味や研究の内容が一人ひとり違い、環境学が持つ幅の広さを実感できます。また授業の最初に、今の気分と最近あった良かったことを話します。時には面白い話があり、笑いが起きることもあります。

グループ実習は穂の国森づくりの会を訪問しました。この会は森づくりを通じて循環型社会の形成をめざすという目的で設立され、NPOとしては規模が大きいです。しかし不景気の影響で、会員からの寄付金等が減少して財政的に苦勞しています。そこで企業の森づくり支援や若者向けのイベントなどを開催して、資金と会員を獲得する努力をしています。私は理学部出身で森についての知識がありませんでしたが、農学部出身の人に森について教わったり、森で活動している会を訪問したりすることで新鮮な経験をしました。

小川 修平  
(穂の国森づくりの会班)  
地球環境科学専攻 M2

